

KOSHIN

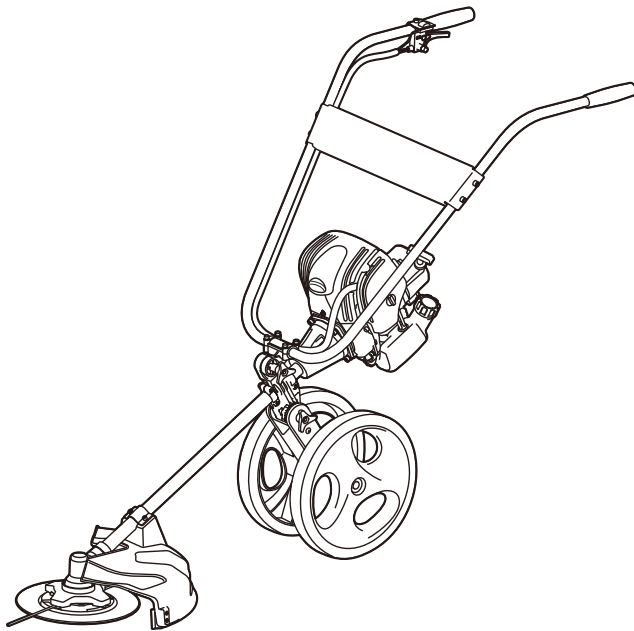
はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他



EBC-35C 4-STROKE 手押し式エンジン草刈機 取扱説明書（保証書付）

用途

雑草の草刈り

用途以外の目的に使用しないでください

目次

はじめに

各部の名称と付属品	2
安全上のご注意	3

準備

組み立て／折りたたみ	6
ナイロンコード	11
給油	13
運搬する	15

使用方法

エンジンの始動／停止	16
草を刈る	19

保守・点検

使用後のお手入れ	23
保管	24
定期点検を行いましょう	25
「故障かな？」と思ったら（故障と処置）	26
整備	28

その他

仕様	30
パーツのご注文は	31
保証書	32

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。

- ご使用前に、この取扱説明書をよく読んで正しく安全にご使用ください。
- お読みになった後も保管してください。
- 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

⚠ 警告



指定純正ナイロンカッターまたはナイロンコード専用

その他の刈刃やオプション品は取り付けできません。



改造禁止

改造して上記の刈刃などを取り付けした場合、キックバック（跳ね返り）を起こし、重傷を負うおそれがあります。

改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。

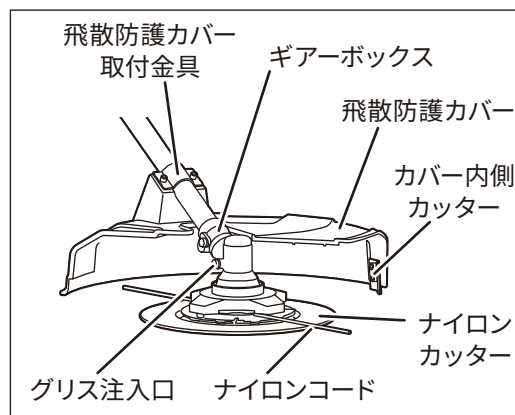
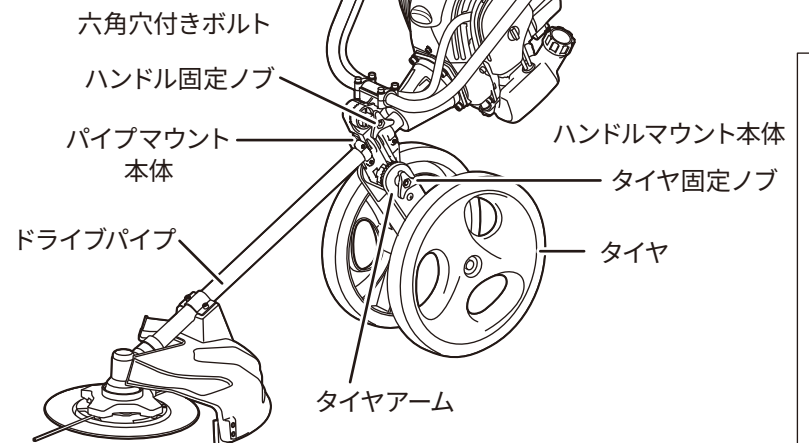
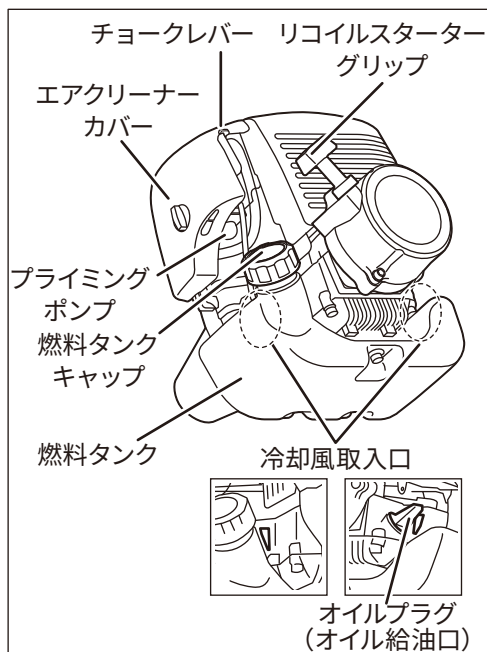
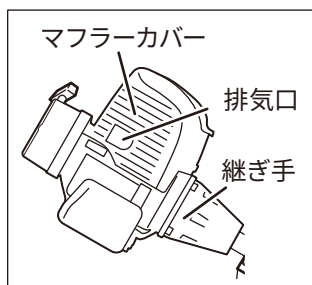
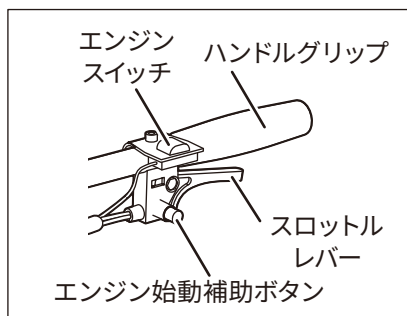
仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

乱丁、落丁はお取り換えします。

株式会社 **工進**


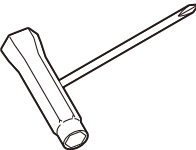



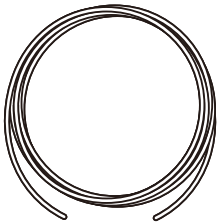
23-03 076011204

各部の名称と付属品



<標準付属品表>




同梱されている付属品がすべてそろっているか確認してください。

 <p>保護メガネ</p>	 <p>プラグレンチ</p>	 <p>六角レンチ</p>	 <p>オイルポット</p>	 <p>結束バンド1本</p>	 <p>ナイロンコード 4 m (ナイロンカッター 本体に取付済み)</p>
--	---	--	---	---	---

安全上のご注意

使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、ご使用になる方や他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。








- 表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。

- お守りいただく内容を区分して説明しています。


 してはいけない「禁止」の内容です。	 必ず守っていただく「実行」の内容です。
---	---

- その他の表示：**取り扱いのポイント** …正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示しています。












 危険	
	飛散防護カバーなど、部品類は必ず取扱説明書に従って純正品、指定部品を指定の位置に確実に取り付ける
	使用前に半径 15 m 以内に他の人や動物がいないことを確認する 特に高所作業のときは、下に他の人や動物がいないことを確認する 事故の原因になります。
	使用中は半径 15 m 以内に他の人や動物を近づけないように注意する 2人以上の作業時はお互いに 15 m 以上の間隔を取り、監督者は 15 m 以内に他の人や動物などが近づいた場合に直ちに本機を停止し作業を中止するように注意する 事故の原因になります。
	本機を使用している人に近づくときは、使用者から 15 m 以上離れた位置で合図し、本機の停止と回転の停止を確認する 事故の原因になります。
	燃料を取り扱うときは次のことに注意する <ul style="list-style-type: none">• エンジンを停止し、エンジンが充分冷えていることを確認する• タバコ、炎や火花などの火気を近づけない• 身体の静電気を放電する 火気や人体の静電気の放電による火花が燃料に引火し、火災の原因になります。
	本機にカバーをかぶせたり、ハンドルにタオルなど燃えやすいものをくくりつけたりして運転しない 火災や故障の原因になります。

安全上のご注意

危険






-  車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど室内および換気の悪い場所で運転しない
くぼ地の脇などで運転する場合は、くぼ地に入らない
エンジンの排気ガス中には有害な物質が含まれており、滞留した排気ガスによりガス中毒を起こすおそれがあります。

警告






-  使用前に草刈りをする場所にある小石、針金、空き缶、空き瓶などの障害物を取り除く
使用中にナイロンカッター本体・ナイロンコードが障害物にあたり、障害物の飛散、本機のキックバック（跳ね返り）、ナイロンカッター本体が破損し、事故の原因になります。
-  周囲に次のものがないことを確認してから作業する
 - 通電している電気設備・機械本体
 - 火気のあるもの
 - 鋭利なものなど飛ぶと危険なもの
-  本機に幼児・子どもが触れないよう、隔離措置をして安全な場所で使用する
-  作業時に適した服装で作業する
(19ページ「服装について」もあわせてご覧ください)
-  本機を持ち上げた状態や無理な姿勢では作業をせず、常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つケガや事故の原因になります。
-  岩など不安定な足場や急傾斜地、雨上がりなど足元が滑りやすい場所で使用しない
ケガや事故の原因になります。
-  爆発物や可燃性の液体・ガス・粉じんのある場所で使用しない
本機から発生する火花が発火や爆発の原因になります。
-  雨の中や水のかかる場所で運転したり、ぬれた手で操作したりしない
本機が雨や水でぬれている、またはぬれた手で本機を操作すると、感電や故障の原因になります。
-  使用中は手足や髪、衣服、手袋などが回転部に巻き込まれないように注意する
 - 長い髪は束ね、帽子やヘアカバーなどで覆う
 - 手ぬぐいやタオルを首、腰から下げて作業しないケガの原因になります。
-  ナイロンカッターで打つ、たたくなどの方法で草刈り作業をしない
ナイロンカッター・ナイロンコードが破損し、事故の原因になります。
-  枝打ち作業には使用しない
ケガや事故の原因になります。

安全上のご注意

警告

-  使用中およびエンジン停止直後は回転部に手足や顔などを近づけない
エンジン停止直後も回転部がしばらく回っているため、ケガの原因になります。
-  次のときは本機を使用しない
 - 疲れているとき、身体が不調のとき
 - 酒類や薬を飲んで正常な運転操作ができないとき
 - 暗い作業場や夜間、悪天候などで視界が悪いとき
 - 妊娠しているとき事故の原因になります。
-  定期点検を行う
点検が不十分だと、事故の原因になります。
-  本機が動かない、発熱や発煙、また音や振動など異常を感じたときは、直ちに使用を中止する
本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。
-  修理技術者を除き、取扱説明書に記載の内容以外の分解や修理・改造は絶対に行わない
異常作動してケガの原因になります。

注意

-  本機を傾けたり、草の密度が濃い場所で使用したりしない
エンジンがオーバーヒートする原因になります。
-  高温のエンジン各部やマフラー、ギアボックス、ナイロンカッター周辺をさわらない
ヤケドの原因になります。
-  ぶつけたときは、本機などに破損や亀裂、変形がないことを点検する
破損や亀裂、変形があると、ケガの原因になります。
-  万一の事故に備えて、必ず救急箱を作業場近くに備え付ける
救急箱から持ち出した場合には、直ちに交換品を補充してください。
-  本機を雨の中やぬれた場所、湿気の多いところに保管しない
故障の原因になります。

取り扱いのポイント

- 本機は機能上、使用時に振動が発生するため、長時間の連続使用は身体に負担をかけることがあります。また、短時間であっても、ご使用中に指や手、腕、肩などに疲れを感じる場合があります。
- 極端な高温や低温の環境下で使用すると、十分な性能を得ることができません。

騒音防止規制について

- 騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制がありますので、ご近所などの周囲に迷惑をかけないようにご使用ください。

組み立て／折りたたみ

⚠ 警告

! 本機の組み立てや付属品を取り付ける、または取り外すときは、必ずエンジン停止状態で行う

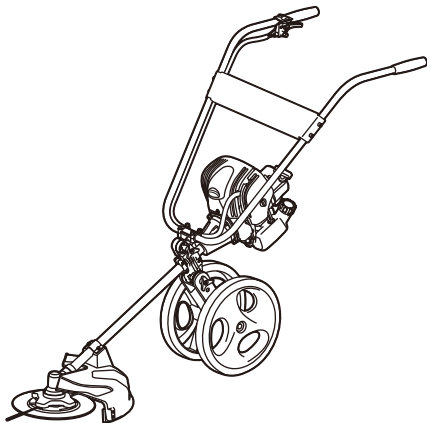
エンジンを運転したまま行うと事故の原因になります。

! 付属品を正しく取り付けてから草刈り作業を行う

組み立て

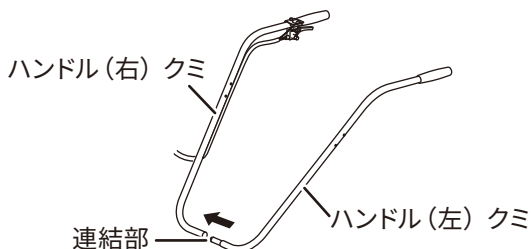
本機を、草刈りに適した「使用状態」にします。

完成図

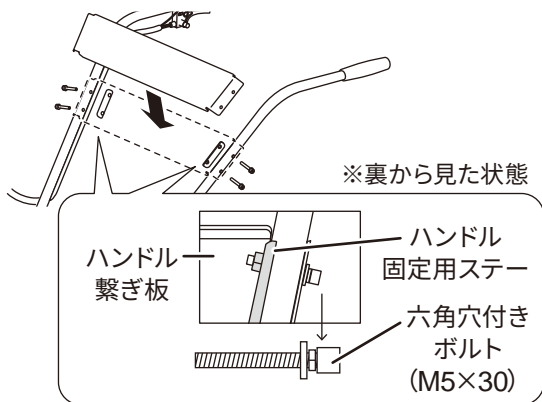


ハンドルの取り付け

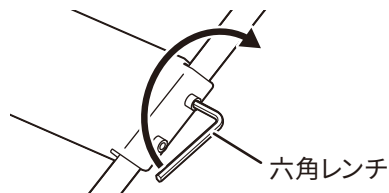
1) ハンドル (右) クミにハンドル (左) クミの連結部をさし込み、ハンドルを組み立てる。



2) ハンドル繋ぎ板を載せ、六角穴付きボルト (4本) とハンドル固定用ステー (2個) で仮止めする。

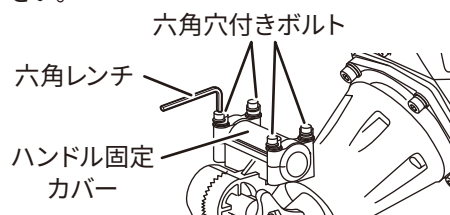


3) 六角穴付きボルトを六角レンチでしっかり締め付ける。

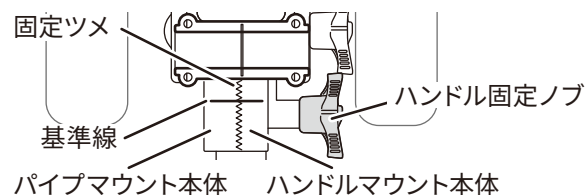


4) ハンドル固定カバーを外す。

仮止めされている六角穴付きボルト (4本) を外してください。



5) パイプマウント本体とハンドルマウント本体の基準線が合っていることを確認する。合っていない場合は、ハンドル固定ノブをゆるめて基準線を合わせる。

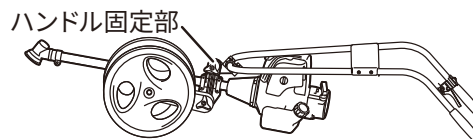


⚠ 注意

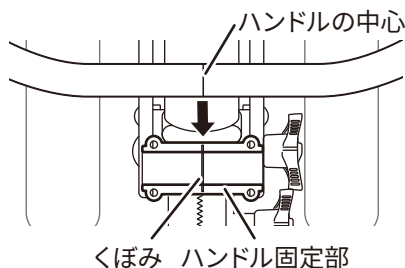
! 固定ツメの山と谷は必ず合わせる
合っていないと振動などで不意にタイヤ部の固定が解除されてしまい、事故の原因になります。

6) ハンドル固定部にハンドルを乗せる。

ハンドルグリップを地面に着けて安定させてください。

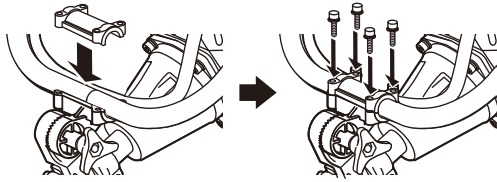


7) ハンドル固定部中心のくぼみとハンドルの中心を合わせる。

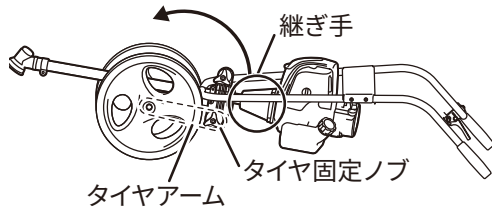


組み立て／折りたたみ

- 8) ハンドル固定カバーをかぶせ、六角穴付きボルト(4本)で仮止める。



- 9) タイヤ固定ノブを軽くゆるめる。
10) 継ぎ手部分を持って、本機を持ち上げるようにしてタイヤアームを回転させる。



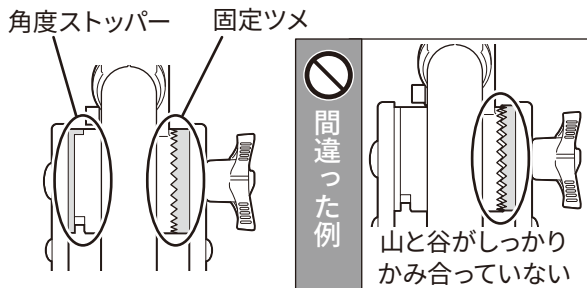
⚠ 注意



指詰めに注意する

各部の固定が解除されるため、注意して作業を行ってください。

- 11) タイヤアームの角度ストッパーがあたる場所まで回転させたら、固定ツメの山と谷がぴったりかみ合わせた状態でタイヤ固定ノブをしっかりと締め付ける。



⚠ 注意



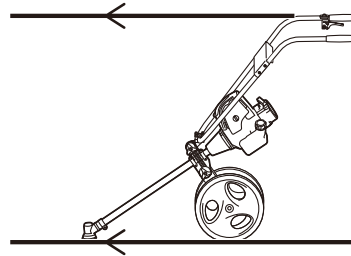
固定ツメの山と谷は必ず合わせる

合っていないと振動などで不意にタイヤ部の固定が解除されてしまい、事故の原因になります。

取り扱いのポイント

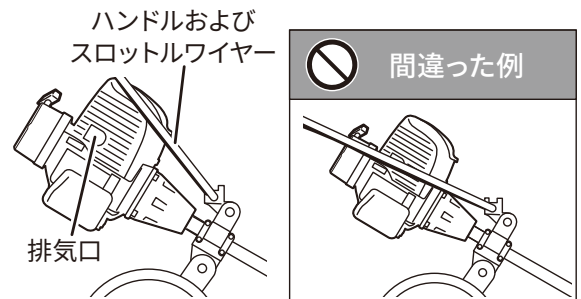
- 継ぎ手部分を持ってエンジンを軽く浮かせながら締めると調整しやすくなります。

- 12) ハンドルグリップが地面に対して平行になる角度(標準角度)に調整する。



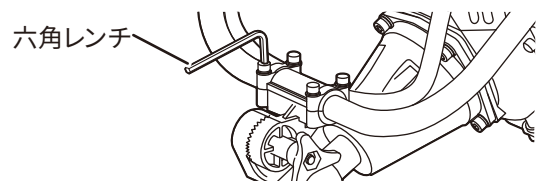
取り扱いのポイント

- 標準角度よりお客様の使いやすい角度に調整できますが、排気口からの排気がハンドルおよびスロットルワイヤーにあたらないよう、ハンドルを下げ過ぎないでください。



- 13) ハンドル固定カバーの六角穴付きボルト(4本)をしっかりと締め付ける。

締め付けが不十分だと作業中に不意にハンドルが動き、危険です。



取り扱いのポイント

- ハンドルにガタつきがある場合は、六角穴付きボルト(4本)を増し締めしてください。しっかりと締め付けられていることを確認してください。

組み立て／折りたたみ

飛散防護カバーの取り付け

飛散防護カバー（以下カバー）は作業者に異物が飛散することを防ぎます。

地面と水平に取り付けるために、平坦・水平な場所で作業してください。

⚠ 警告

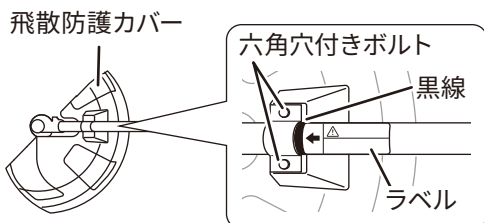
- ❗ カバーを所定の位置に確実に取り付けから使用する

正しく取り付けないで使用すると、飛散物を防護できないまたは効果が下がり、ケガの原因になります。

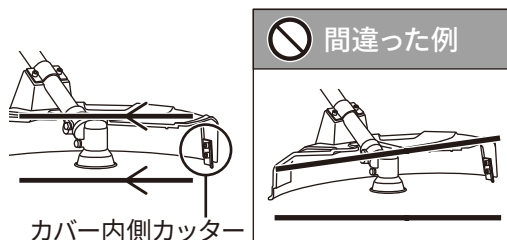
⚠ 注意

- ❗ カバー内側の cutter には触れない
カバー内側にはナイロンコードを切るためのカバー内側 cutter が付いています。ケガのおそれがあるため触れないでください。

- 1) 図のように、本体貼付ラベルの黒線のとなりに、地面に対して平行にカバーを取り付け、六角穴付きボルト（2本）を六角レンチでしっかり締め付ける。



平行になっていないと、カバー内側 cutter が機能せず、本機が故障するおそれがあります。

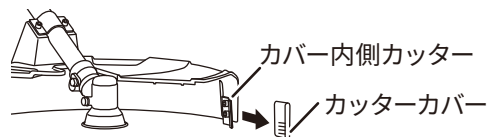


取り扱いのポイント

- カバー内側 cutter は、間違った取り付けによる長過ぎるナイロンコードを切ることで、本機を故障から守ります。

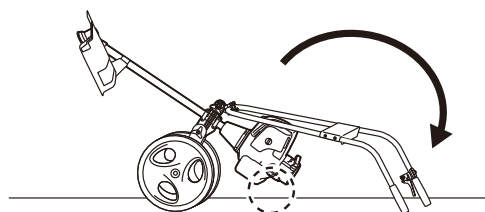
ナイロンカッターの取り付け

- 1) カバー内側 cutter の cutter カバーを外す。



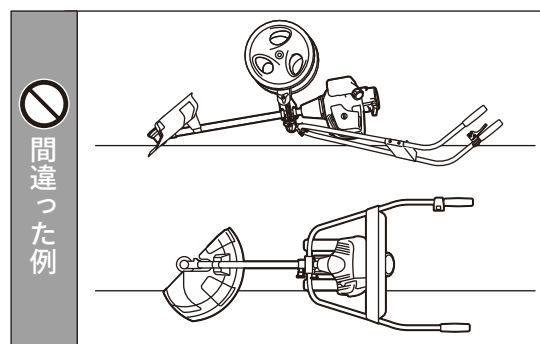
- 2) ハンドル固定ノブがしっかりと締まり、ハンドルの角度が確実に固定されていることを確認する。
- 3) 本機をゆっくりとハンドル側に倒す。

ハンドルが地面に着き、エンジンが地面から浮いていることを確認してください。



⚠ 注意

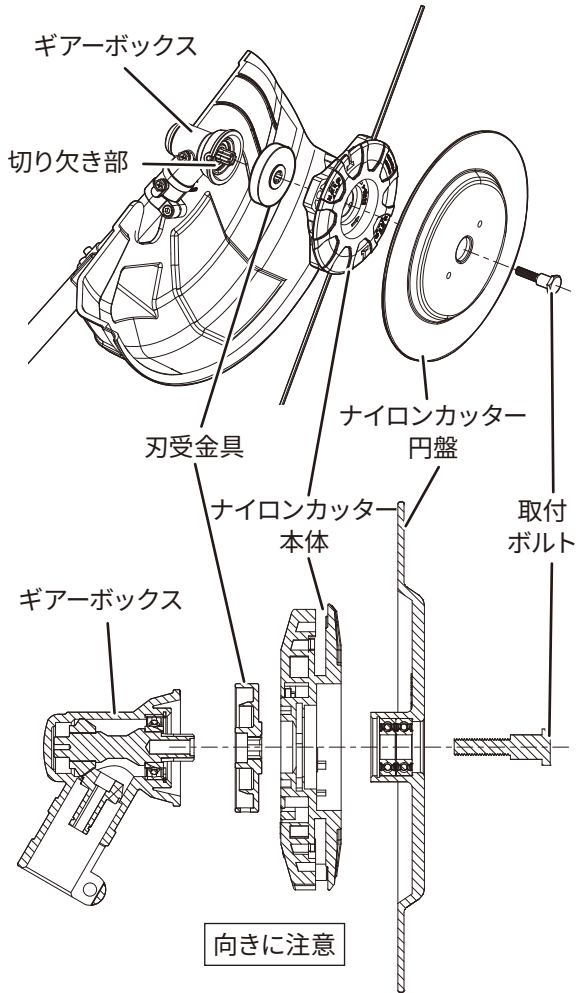
- ⊘ 本機を天地逆にしたり、横に倒したりしない
燃料が漏れて事故の原因になります。



組み立て／折りたたみ

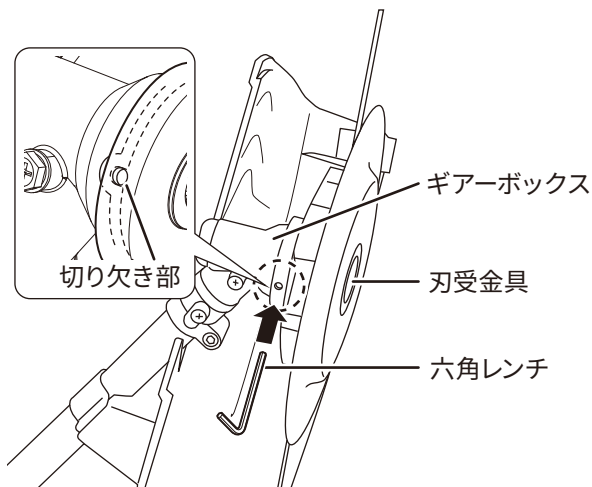
4) 下図を参考に仮止める。

刃受金具が落ちないように指で押さえながら、手で取付ボルトを反時計回りに回してください。

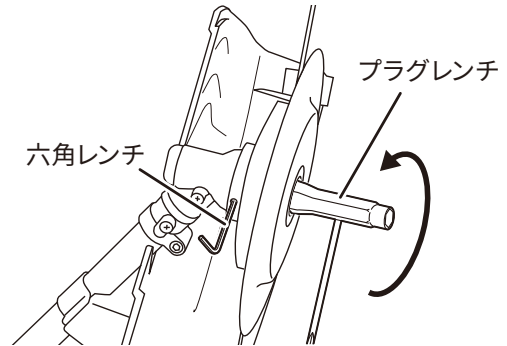


5) 手で取付ボルトが回せなくなったら、ギャーボックスと刃受金具の切り欠き部を合わせて六角レンチをさし込む。

刃受金具が回らないように固定されます。



6) 六角レンチをさし込んだまま、付属のプラグレンチで取付ボルトを反時計回りに回してしっかり締め付ける。



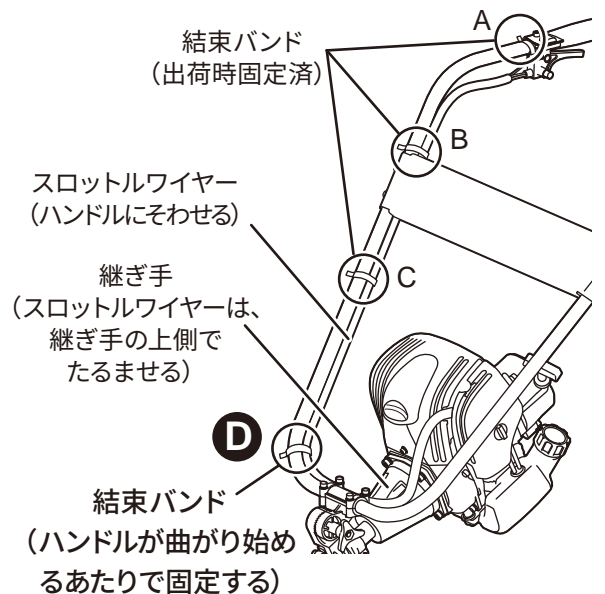
⚠ 注意

! 取付ボルトはしっかり締め付ける
締め付けが弱いと、ナイロンカッターの脱落や破損が発生し、ケガの原因になります。

7) 六角レンチとプラグレンチを外し、ナイロンカッターがしっかりと取り付けられていることを確認する。

スロットルワイヤーの固定

- 1) スロットルワイヤーが継ぎ手の上側に来ていることを確認する。
- 2) 付属の結束バンドを使用して図Dのようにスロットルワイヤーをハンドルに固定する。



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

組み立て／折りたたみ

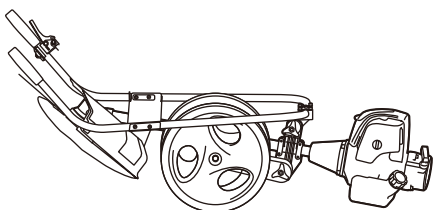
ナイロンカッターの取り外し

取り付け方と逆の手順で行ってください。取付ボルト（左ネジ）は時計回りに回すとゆるみます。

折りたたみ

本機を保管・運搬などに適した「折りたたみ状態」にします。

完成図



- 1) エンジン停止直後は、エンジンが熱くなっているため冷えるまで待つ。
燃料タンクに燃料が入っている場合、手順2)と3)を行う。
- 2) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する。



危険

電動式ポンプは使用しない
引火し、火災の原因になります。

燃料を取り扱うときは次のことに注意する

- エンジンを停止し、エンジンが充分冷えていることを確認する
- タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
- 身体の静電気を放電する

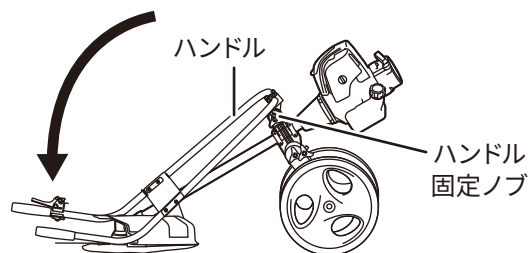
火気や人体の静電気の放電による火花が燃料に引火し、火災の原因になります。

- 3) 燃料タンクキャップを開け、手順2)で用意した燃料携行缶にポンプを使用して燃料を移す。

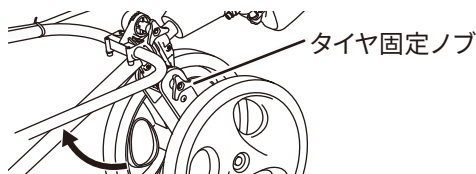
危険

燃料をこぼさない
燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

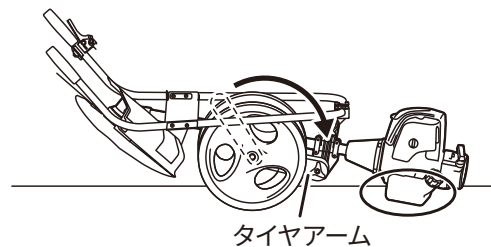
- 4) ハンドル固定ノブをゆるめ、パイプマウント本体とハンドルマウント本体のかみ合わせを外し、ハンドルを折りたたむ。



- 5) 固定ツメの山と谷を合わせて、ハンドル固定ノブを締め付ける。
- 6) タイヤ固定ノブをゆるめて、タイヤ部を折りたたむ。



本機を持ち上げるようにしてタイヤアームを回転させてください。その際、燃料タンクを傷つけないよう、エンジンはゆっくりと地面に置いてください。



注意

指詰めに注意する
各部の固定が解除されるため、注意して作業を行ってください。

- 7) タイヤ固定ノブを締め付けてタイヤアームを固定する。
タイヤアームが不用意に動くことを防ぎます。

ナイロンコード

作業前に必ずエンジンを停止し、燃料タンクキャップがしっかり閉まっていることを確認してください。

製品出荷時はナイロンコードがナイロンカッター本体にすでに取り付けられています。

巻き込み

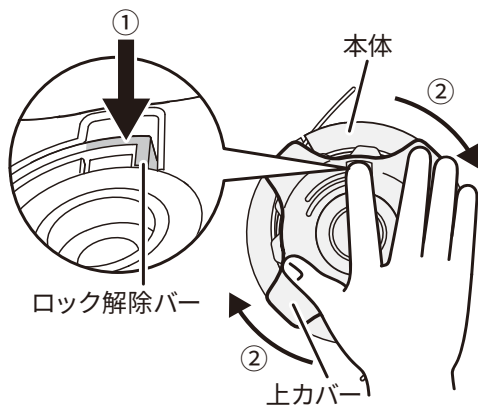
ナイロンコードが短くなったら、以下の手順で新しいコードを巻き込んでください。

⚠ 注意

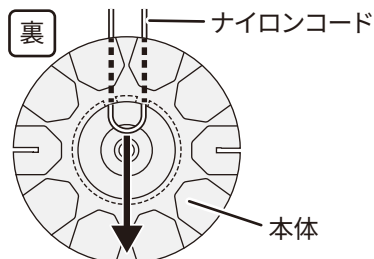
⊘ 対応する純正ナイロンコード以外の草刈用ナイロンコード、針金、ワイヤー、硬質ビニールなどは絶対使わない

❗ 取り付けるナイロンコードは4 m以下とする
本機が異常振動し、事故の原因になります。また、ナイロンカッターの寿命が短くなるおそれがあります。

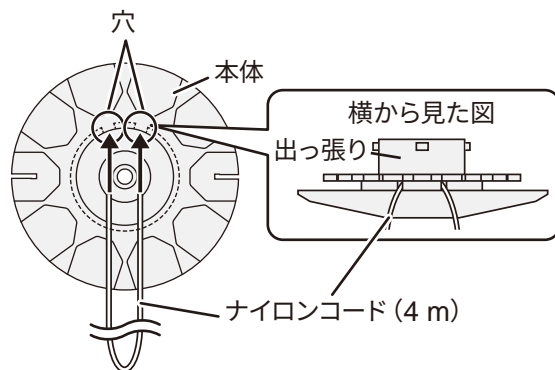
- 1) 交換用コード (31ページ「主なパーツ」参照) 20 mのうち、4 mを切り取る。
- 2) ナイロンカッターを本機から取り外す。
- 3) ロック解除バーの先端部を押しながら ①、上カバーを時計回りに回す ②。



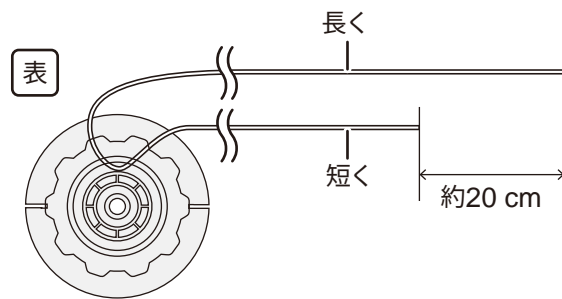
- 4) 本体から上カバーを外す。
- 5) 本体を裏返し、残っているナイロンコードを穴から引き出す。



- 6) 穴 (2か所) に手順1) で用意した新しいナイロンコードをさし込む。

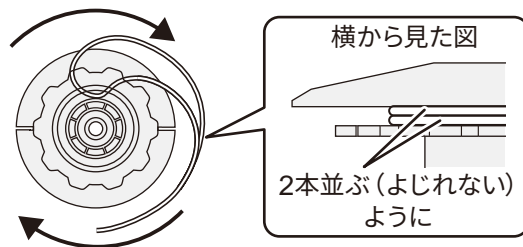


- 7) 本体を表返し、ナイロンコードを引っ張って2本の長さを図のようにする。



取り扱いのポイント

- ナイロンコードの長さに差をつけることで、巻き込んだあとカットされる不要なナイロンコードの量を少なくできます。
- 8) 横から見たとき、ナイロンコードが2本並ぶ(よじれない)ようにして強くひっぱりながら、2本あわせて時計回りに巻き込む。



はじめに

準備

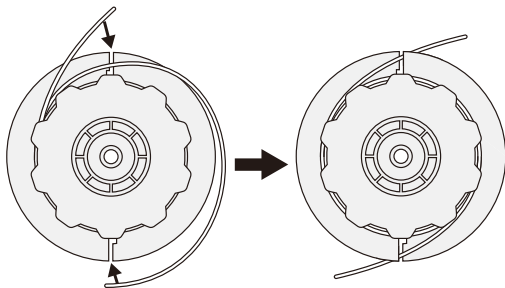
使用方法

保守・点検

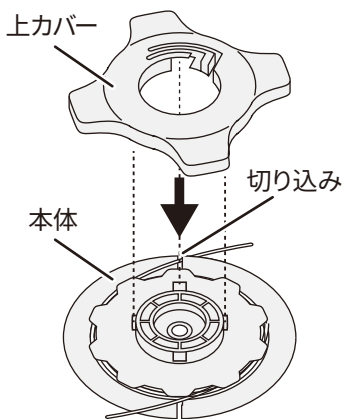
その他

ナイロンコード

- 9) 巻き込みが終わったら、本体の切り込みにナイロンコードを軽く引っ掛けて仮止める。(2本とも)

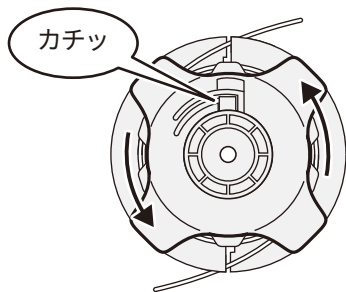


- 10) 上カバーをかぶせる。その時、上カバーと本体の間にナイロンコードをはさまないようにする。

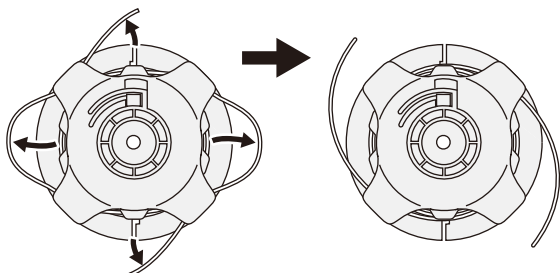


- 11) 上カバーを軽く押さえながら、反時計回りに止まるまで回す。

「カチッ」と音がして、上カバーが確実に取り付けられたことを確認してください。取り付けが不十分だとナイロンカッターが回転したときに外れるおそれがあります。

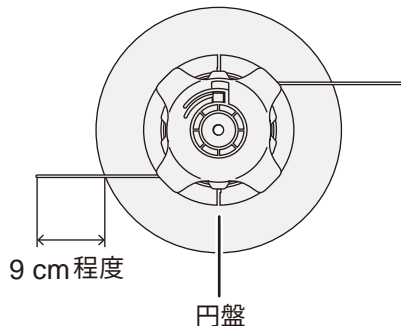


- 12) 切り込みに引っ掛けたコードを外し、ひと山分ナイロンコードを引っ張り出す。(2本とも)



- 13) 本体を円盤に載せ(円盤の出っ張りに位置を合わせる)、円盤の端からナイロンコードが約9 cm程度出ていることを確認する。

長すぎるナイロンコードは、エンジンを始動してナイロンカッターを回転させたときにカバー内側カッターによって適切な長さにカットされます。

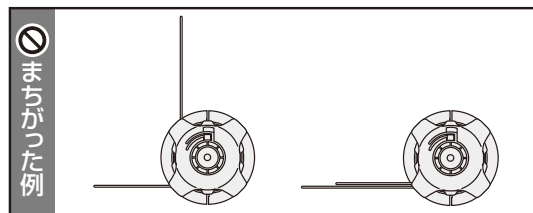
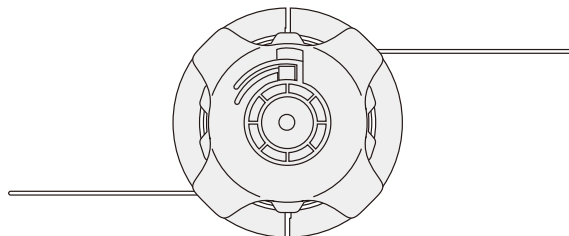


調整

ナイロンコードが短くなって刈れなくなったら、ナイロンコードを引っ張り出してください。

- 1) 「巻き込み」の手順12)を参考に、ひと山分ナイロンコードを引っ張り出す。

必ず2本同時に行い、常にナイロンコードが図のように向き合って(対称)出るようにしてください。



- 2) ナイロンコードが短くなり、草が刈れなくなったら、新しいナイロンコードを取り付ける。

(11ページ「巻き込み」参照)

給油

4サイクルエンジンには「燃料」と「エンジンオイル」の2種類が必要です。必ずどちらも給油してから始動してください。

取り扱いのポイント

- 燃料およびエンジンオイルの種類を守ってください
守らないと、エンジン故障の原因となります。

燃料

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。以下の手順を必ず守って作業を行ってください。

以下を用意する

- 使用燃料：レギュラーガソリン
燃料タンク容量：約0.7 L

取り扱いのポイント

- 古い燃料は使用しないでください
燃料携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因になります。
- ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した燃料携行缶を使用してください
灯油かん（通称：ポリ缶）やペットボトルに保管しないでください。
ガソリン内に成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

⚠ 危険

- 燃料を取り扱うときは次のことに注意する
 - エンジンを停止し、エンジンが充分冷えていることを確認する
 - タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
 - 身体の静電気を放電する
火気や人体の静電気の放電による火花が燃料に引火し、火災の原因になります。

- 次のような場所で給油する
 - 焚き火などの火種がない
 - 換気が良い
 - 地面が平坦・水平で硬い

- エンジン停止状態で、冷えていることを確認する。

⚠ 危険

- 燃料タンクに燃料が入っていて、エンジンが熱いとき、また気温が高いときは燃料タンクキャップを開けない
ガソリンが勢いよく噴出するおそれがあります。
- エンジンが熱いときは給油しない
エンジン停止直後などエンジンが熱いときに給油すると引火のおそれがあります。

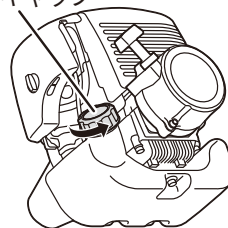
- 本機を使用状態にする。

⚠ 注意

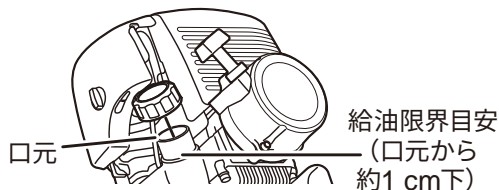
- 折りたたんだ状態で給油しない
給油後に本機を使用状態にすると、燃料タンクキャップから燃料が漏れるおそれがあります。

- 本機が不意に動かないよう固定する。
- 燃料タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を無くす。

燃料タンクキャップ



- 燃料タンクキャップを外す。
- 燃料をゆっくり、給油限界目安まで給油する。
入れ過ぎると、燃料給油キャップからにじみ出る原因になります。



給油

警告

- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受ける

取り扱いのポイント

- 燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないようにしてください
- 7) 燃料タンクキャップを確実に締め付ける。

注意

- こぼした燃料は拭き取る
燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える

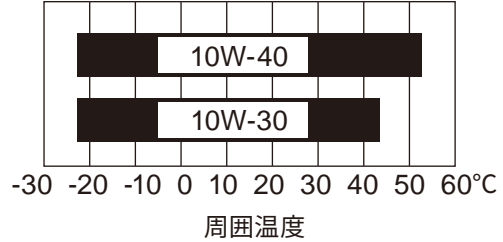
エンジンオイル

取り扱いのポイント

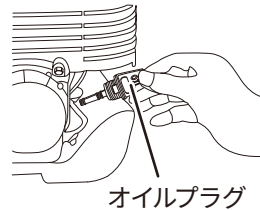
- エンジンの始動前に必ずエンジンオイルを給油してください
エンジンオイルが入っていない状態でエンジンを始動すると、エンジンが故障（焼き付き）します。焼き付きによる故障は保証外です。
- 1) 以下を用意する。
- 推奨オイル：4サイクル用エンジンオイル
SE級以上 SAE 10W-30
エンジンオイル規定量：0.1 L
 - 付属のオイルポット

取り扱いのポイント

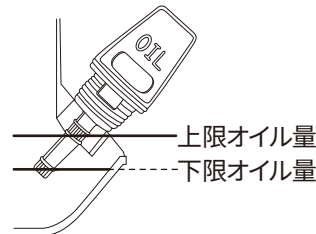
- 使用環境の外気温が次の範囲内であれば、記載の粘度のエンジンオイルが使用できます。



- 2) エンジンを水平にする。
3) オイルプラグを外す。



- 4) オイル給油口の口元まで給油する。
- 付属のオイルポットを使用すると正しく給油しやすくなります。
 - エンジンオイル規定量が少量のため、オイルがあふれないよう少しずつ様子を見ながら給油してください。



- 5) オイルプラグを取り付けて、しっかりと締め付ける。

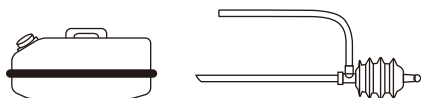
取り扱いのポイント

- 初回のみ、8時間運転または1か月後にオイル交換を行ってください。交換しないとエンジンが焼き付きなどの故障を起こすおそれがあります。2回目以降は25ページ「エンジンの定期点検」に基づいて交換してください。
- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

運搬する

本機を車両などで運搬する場合には、次のことを必ず守ってください。

- 1) エンジン停止状態で、冷えていることを確認する。
- 2) 燃料タンクに燃料が残っている場合、手順3) と4) を行う。
- 3) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する。



⚠ 危険

- ⊘ 電動式ポンプは使用しない
引火し、火災の原因になります。

- ⚠ 燃料を取り扱うときは次のことに注意する

- エンジンを停止し、エンジンが充分冷えていることを確認する
- タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
- 身体の静電気を放電する

火気や人体の静電気の放電による火花が燃料に引火し、火災の原因になります。

- 4) 燃料タンクキャップを開け、手順3) で用意した燃料携行缶にポンプを使用して燃料を移す。

⚠ 危険

- ⊘ 燃料をこぼさない
燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

- 5) 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定する。

⚠ 危険

- ⊘ 本機および燃料入り携行缶を車室内やトランクに積んだまま、直射日光のあたるところや高温となる場所に放置しない
燃料が気化して引火しやすい状態になる原因になります。

⚠ 警告


- ⊘ 本機を車に積んだまま長時間悪路を走行しない
本機が破損し、事故の原因になります。

エンジンの始動／停止

点検





部位	項目
各部	ネジ、ナット類のゆるみ点検
エンジンオイル	点検
燃料配管部	点検
エアクリーナー	点検・清掃
冷却風取入口、冷却フィン、マフラー周辺	点検・清掃

注意


- 
使用前に必ずカバー内側のカッターの保護カバーを取り外す
 (8ページ「ナイロンカッターの取り付け」の手順1) 参照)

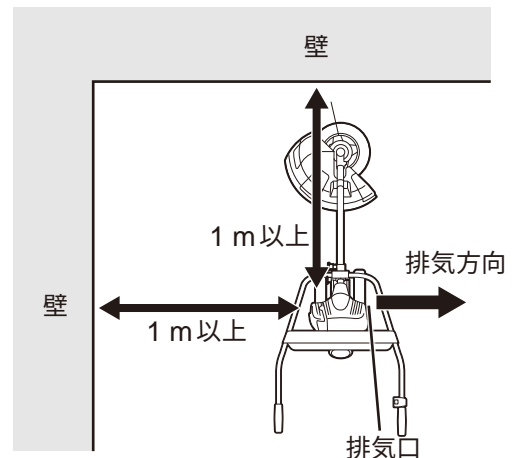
エンジン始動時の注意

危険



- 
車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど室内および換気の悪い場所で運転しない
 エンジンの排気ガスには有毒な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因になります。
- 
本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりして使用しない
 また、本機の上に物を乗せて使用しない
- 
傾斜地でエンジンを始動しない
 平坦・水平で硬い場所で始動してください。
- 
燃料タンクやホースの破損、またはエンジンや燃料タンクからの燃料漏れがないか確認する
 破損や燃料漏れがある場合は、直ちに本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へ修理をご依頼ください。

危険

- 
本機の周りにガソリン、エンジンオイル、または危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)、燃えやすい物(わらくず、紙くずなど) 障害物を近づけない
 本機から出る排気ガスは熱くなります。建物およびその他の物から1 m以上離してください。火災や故障の原因になります。
 また、排気口は風通しの良い、広い場所に向けてください。(下図参照)

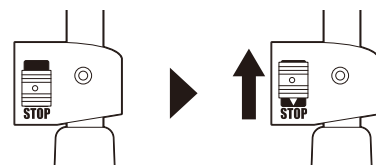


警告

- 
エアクリーナーカバーなど部品類を外したまま使用しない
 手や足をはさむ事故や、エンジン故障の原因になります。
- 
雨の中や水のかかる場所で運転したり、ぬれた手で操作したりしない
 本機が雨や水でぬれている、またはぬれた手で本機を操作すると、感電や故障の原因になります。

エンジンの通常始動

- 1) ハンドル付近にある、エンジンスイッチをスライドさせる。

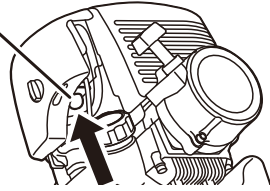


エンジンの始動/停止

2) プライミングポンプを約10回指で押す。

エンジンの始動系統に燃料が供給されます。

プライミングポンプ
(エアクリーナー
カバー内側)



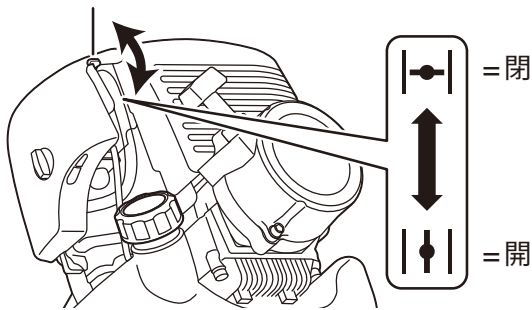
取り扱いのポイント

- 本機はプライミングポンプ操作を行ったとき、余分な燃料はタンクに戻る構造になっています。プライミングポンプ操作を多く行っても吸い込み過ぎにはなりません。むしろ少ない場合には始動不良になることがありますので、充分行ってください。
- エンジンの一時停止直後はプライミングポンプを押す必要はありません。

3) チョークレバーの操作1

- 寒いときや、エンジンが冷えているとき：
チョークレバーを上(閉)にする
- 暑いときや、エンジンの一時停止直後などエンジンが暖まっているとき：
チョークレバーを下(開)にする

チョークレバー



4) 次のことに注意しながら、リコイルスターターグリップ(以下「リコイル」)を数回引く。

- リコイルは図のように、軽い力で一度に長くロープを引き出す。



- ナイロンカッターに足や物が触れないよう充分に距離を取る。
- ハンドルに親指をかけ、他の指とともにハンドルを囲むように握る。(スロットルレバーを握らない) 本機が固定されていることを確認する。(21ページ「振り返りについて」参照)

5) チョークレバーの操作2

- エンジンが始動した場合：
そのまま(約10秒)様子を見て、エンジンが止まらなければ、チョークレバーを下(開)にする
- エンジンが始動しない、または数秒で停止する場合：
チョークレバーを下(開)にして、再度リコイルを引く

6) リコイルをゆっくりと元に戻す。

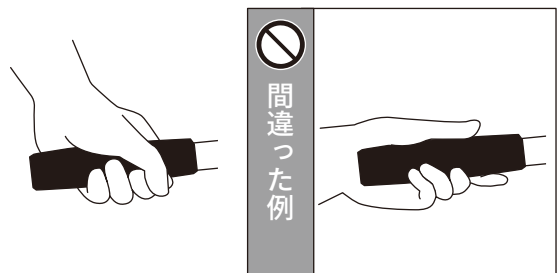
注意



エンジンの運転中はリコイルを引かない

エンジンが破損する原因になります。

7) ハンドルグリップに親指をかけ、他の指とともにグリップを囲むように握る。



8) スロットルレバーから手を放した(エンジンの低速運転)状態で、約1分間エンジンを運転する。(暖気運転)

暖気運転を行わずにスロットルレバーを深く握る(エンジンの高速運転)と、不意にエンジンが停止することがあります。

上記の手順でエンジンが始動できない場合は

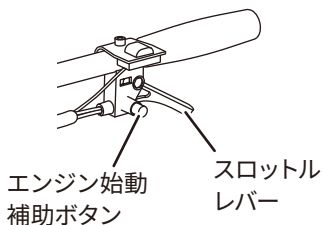
18ページ「エンジン始動補助ボタンを使用したエンジンの始動」を参照してエンジンを始動してください。

エンジンの始動／停止

エンジン始動補助ボタンを使用したエンジンの始動

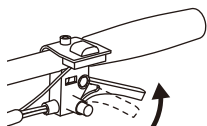
16ページ「エンジンの通常始動」の手順でエンジンが始動できない場合は「エンジン始動補助ボタン」を使用してエンジンを始動してください。

- 1) スロットルレバーを深く握りながら、エンジン始動補助ボタンを押し込む。



- 2) エンジン始動補助ボタンを押したまま、スロットルレバーを放す。

スロットルレバーが1/3程度の位置で固定されていることを確認してください。



- 3) エンジン始動補助ボタンから手を放す。

⚠ 注意



エンジン始動補助ボタンを使用したエンジンの始動は、ハンドルをしっかり握って行う

始動してすぐにナイロンカッターが回転するため、振り返りを防ぐためハンドルをしっかり握ってください。

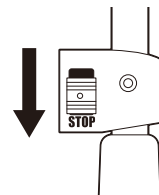
(21ページ「振り返りについて」参照)

- 4) 16ページ「エンジンの通常始動」手順1)～手順6)を行う。
- 5) エンジンが始動したらスロットルレバーをゆっくり深く握る。
エンジン始動補助ボタンが自動的に解除されます。
- 6) 17ページ手順7)と8)を行う。

エンジンの停止

エンジンの緊急停止

- 1) エンジンスイッチを「STOP」にする。

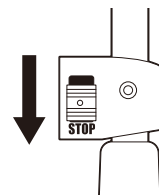


取り扱いのポイント

- 緊急停止する場合のみ行ってください。通常は次の「エンジンの通常停止」の手順で停止してください。

エンジンの通常停止

- 1) 平坦・水平で硬い場所に本機を移動させる。
- 2) ハンドルグリップに親指をかけ、他の指とともにグリップを囲むように握る。
- 3) スロットルレバーを完全に放す。
- 4) ナイロンカッターが完全に停止したら、エンジンスイッチを「STOP」にする。



⚠ 注意



スイッチに異常がないか点検する

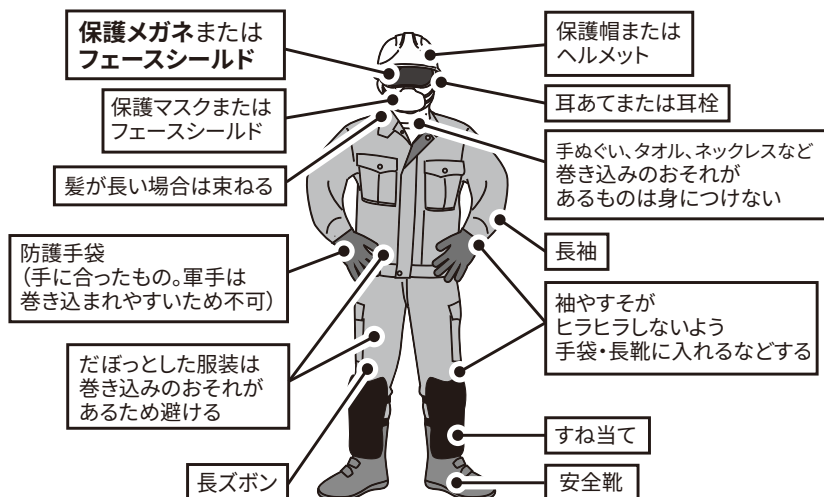
スイッチで停止操作ができない場合は、使用せず修理をご依頼ください。そのまま使用すると、事故の原因になります。

草を刈る

服装について

草刈時は石やゴミを巻き上げる、本機の回転部に巻き込まれるなどしてケガをするおそれがあります。次のような安全な服装で作業を行ってください。

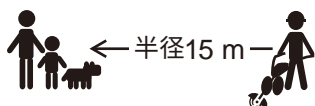
※保護マスクなどは付属していません。別途ご用意ください。



草刈時のチェックポイント

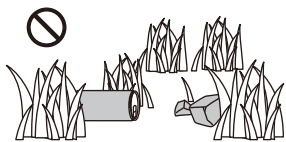
❶ 半径15 m以内に人や動物はいますか？

いる場合は安全のため本機を使用しないでください。



❷ 小石や空き缶などの障害物が草に隠れていませんか？

飛散すると危険なため、事前に確認し、取り除けるものは取り除いてください。



障害物 草に隠れた溝など

❸ 草むらの中や付近の高所にハチの巣やヘビが隠れていませんか？

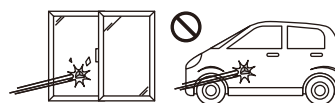
作業前に静かな状態で下見をしてください。

作業音はハチに刺激を与え、またハチの出す警告音をかき消します。



❹ ガラス窓や車など、傷を付けたくない物が近くにありませんか？

飛散した小石でガラスが割れる、傷が付くおそれがあります。板などで養生するか、移動させるなどしてください。



❺ 足元や周囲に障害物はありませんか？

作業場所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に充分確認してください。

埋設物があると本機が触れ、感電や漏電・ガス漏れのおそれがあり、事故の原因になります。

❻ エンジンが過負荷になっていませんか？

本機を傾けてナイロンコードが地面と接触したり、草の密度の濃い場所で作業したりすると過負荷が発生してエンジン回転数が低下します。


エンジン回転数が低下した場合は、ナイロンコードを草から離して、エンジン回転数が高回転に復帰してから作業を再開してください。

草を刈る

作業前／作業中の点検

部位	項目
各部	ネジ、ナット類のゆるみ点検
	割れ、欠け、変形、摩耗、損傷 などの点検
ナイロンカッター本体	取付ボルトのゆるみ点検
ナイロンコード	正しい取り付けの点検
飛散防護カバー	取り付け位置、角度の点検
タイヤ固定ノブ	締め付けの点検
ハンドル固定ノブ	締め付けの点検
ハンドル	取り付け角度の点検
ギアボックス	周辺の清掃
冷却風取入口	清掃

⚠ 注意

- 
 使用前にネジのゆるみや欠落した部品、破損などがないか確認し、異常がある場合は使用を中止する
 不完全な本機を使用するとケガの原因になります。

草の刈り方

- カッターカバーが外れていることを確認する。
 (8ページ「1) カバー内側カッターのカッターカバーを外す。」参照)
- エンジンを始動する。
 (16ページ「エンジンの通常始動」参照)
- 本機のエンジン側に立つ。
- ハンドルグリップに親指をかけ、他の指とともにグリップを囲むように握る。
- スロットルレバーをゆっくり深く握って、ナイロンカッターを回転させる。

取り扱いのポイント



- ナイロンコードが高速回転し、カッターにより適切な長さにカットされたナイロンコードが周囲に飛びます。必ず長ズボンや保護めがねを着用してください。(19ページ「服装について」参照)

- ナイロンカッターを地面上で滑らせるようにしながら前進し、草を刈る。





作業を一時中断するときは、必ず本機を平坦・水平な場所に移動してエンジンを停止してください。

- エンジンの停止を行う。
 (18ページ「エンジンの停止」参照)

⚠ 危険

- 
 使用中は、本機を両手で確実に保持するその際、手が滑らないようにする
- 
 高温のエンジンやマフラーに可燃物を接触させない
 枯れ草などが触れると火災の原因になります。

⚠ 警告

- 
 取り扱い方法、作業のしかた、周りの状況など充分注意して慎重に作業する
- 
 本機の能力に合った負荷（切断対象、運転時間など）で作業する
 無理な作業は事故の原因になります。作業能率が悪くなります。
- 
 使用中、石などの障害物にあたったときは、すぐに本機を停止させ異常がないか調べるそのまま使用すると事故の原因になります。
- 
 使用中、本機の調子が悪いときや異常音がしたときは、直ちにエンジンを停止して使用を中止し、点検・修理を依頼する
 そのまま使用するとケガ・事故の原因になります。

草を刈る

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

スロットルレバー

⚠ 警告

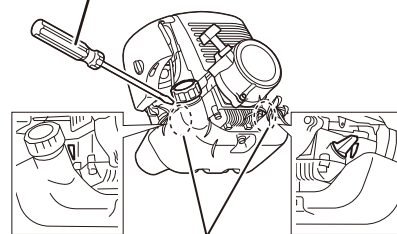
- レバーを握った状態でひもなどで固定しない
緊急時にナイロンカッターの回転が止まらずケガの原因になります。

取り扱いのポイント

- 作業中は、レバーは深く握るか、全く握らないかのどちらかにする
上記以外の状態(≒半クラッチ)でナイロンカッターをゆっくり長時間回し続けると、本機が故障するおそれがあります。

冷却風取入口

ドライバーなど



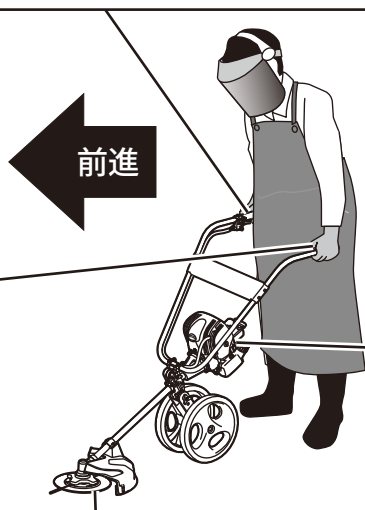
冷却風取入口

取り扱いのポイント

- ときどきエンジンを停止し、ドライバーなどで付いた草やゴミを取り除く
取入口がふさがるとエンジンに冷却用の空気が取り入れられず、故障(焼き付き)します。焼き付きは保証対象外です。
- 草やゴミを取り除くときはドライバーなどを使用する
水をかけるとエンジンが故障するおそれがあります。

ハンドルグリップ

- ナイロンカッターが回転している間は絶対に手を放さない
→下記「振り返りについて」参照



ナイロンカッター

- 軽く地面に置くようにして滑らせる
(強く地面に押しつけると、摩耗が早まります)
- 地面を掘り起こすような使い方はしない
- 地面と平行にする

⚠ 警告

- 敷砂利など、飛散するおそれがあるが取り除けないものがあるときは地面から軽く浮かせて使用する
ナイロンカッターが接触したとき、砂利が飛散するなどケガの原因になります。
- からまった草を取り除くときは必ずエンジンを停止する
不用意にナイロンカッターが回転し、ケガの原因になります。

振り返りについて

本機が押さえられていない状態になると、本機がタイヤを中心に回転する「振り返り」が発生します。

⚠ 注意

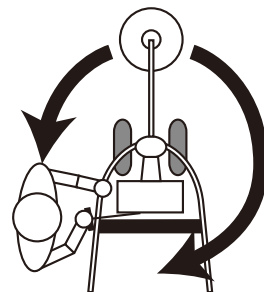
- ナイロンカッターが回転している状態でハンドルグリップから手を放さない
ケガの原因になります。

振り返りが発生しないように

- ハンドルから手を放す前にナイロンカッターが完全に停止していることを確認する。

エンジン始動時、万が一振り返りが発生しても危険性を最小限にするために

- ハンドルをしっかりと握る
(スロットルレバーは握らない)



草を刈る

草の背が高くて刈りにくいときは

- あらかじめ背の高い草だけはさみなどで短く刈っておく(①)
- ナイロンカッターが地面から浮くように本機を軽く傾けて草を上から数回に分けて刈るようにする(②)



ナイロンコードが短くなったら

11ページ「ナイロンコード」を参照して、ナイロンコードを調整、交換してください。

燃料タンクが空になったら

13ページ「燃料」を参照して燃料を補給してください。

使用後のお手入れ

- 1) 雨などがかからず、平坦・水平で硬い場所に置く。
- 2) 本機が冷めるまで待つ。

⚠ 注意

- ⊘ 高温のエンジンやマフラー、エンジン各部、ギアボックス、ナイロンカッター周辺をさわらない
ヤケドの原因になります。

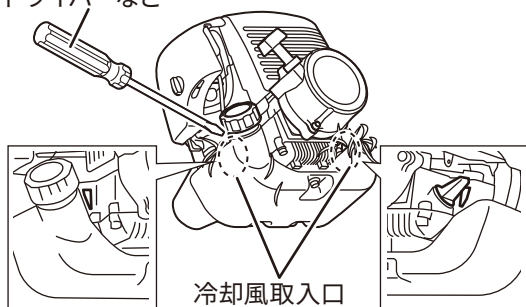
- 3) 各部に付いた草やゴミを取り除き清掃する。

取り扱いのポイント

- 清掃するときは布などを使用する
水をかけるとエンジンが故障するおそれがあります。また、土をかき出すときは棒などで強く押さないでください。
- ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは使用しないでください
変色、変形、ひび割れの原因になります。
- 次の場所は特にきれいに清掃してください
本機の故障を防ぎます。

エンジン周り

- 冷却風取入口
ドライバーなど先の細い工具を用いて冷却風取入口のカバーに付着した草やゴミをかき出すように取り除いてください。
ドライバーなど

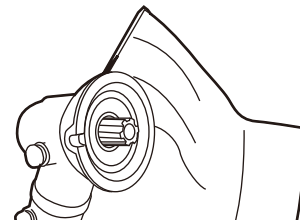


取り扱いのポイント

- 冷却風取入口がふさがるとエンジンが故障します。

ナイロンカッター周り

- ギアボックス
(周囲および刃受金具を外したところ)



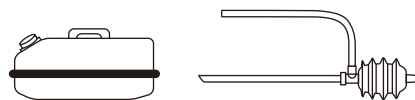
- ナイロンカッター
- 取付ボルトとその周囲

- 4) 作業後の点検を行う。

(25ページ表中「作業前後」参照)

燃料タンクに燃料が残っている場合、手順5)と6)を行う

- 5) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する。



⚠ 危険

- ⊘ 電動式ポンプは使用しない
引火し、火災の原因になります。

- ❗ 燃料を取り扱うときは次のことに注意する

- エンジンを停止し、エンジンが充分冷えていることを確認する
- タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
- 身体の静電気を放電する
火気や人体の静電気の放電による火花が燃料に引火し、火災の原因になります。

- 6) 燃料タンクキャップを開け、手順5) で用意した燃料携行缶にポンプを使用して燃料を入れ替える。

⚠ 危険

- ⊘ 燃料をこぼさない
燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

保管

通常の使用後は「一時保管」を、次回の使用が1か月以降になる場合は「長期保管」を行ってください。

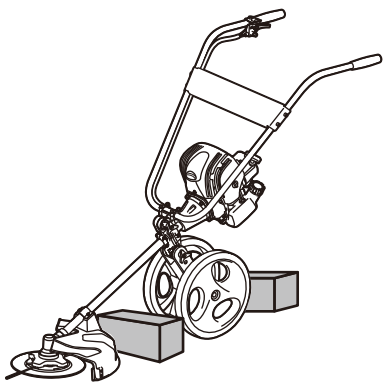
保管に適した場所

次のような場所に保管してください。

- 雨や直射日光のあたらない室内
- 乾燥したところ
- 温度や湿度が急変しないところ
- 揮発性物質が置いていないところ
- 子どもの手が届かない、また簡単に持ち出せないところ

一時保管

- 1) 「使用後のお手入れ」をすべて行う。
(23ページ「使用後のお手入れ」参照)
- 2) 本機が移動しないように固定する。
本機にタイヤを固定する機能はありません。



- 3) 本機にカバーを掛け、適した場所に保管する。
(上記「保管に適した場所」参照)

長期保管

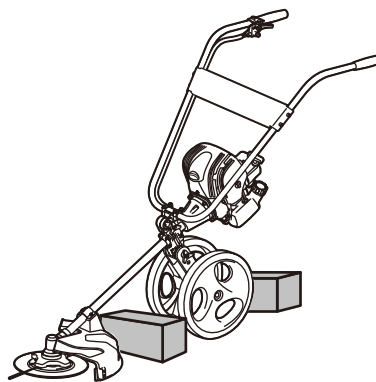
- 1) 「使用後のお手入れ」をすべて行う。
(23ページ「使用後のお手入れ」参照)
- 2) 換気が良く、他の建物などから1 m以上離れた場所で16ページ「エンジンの通常始動」手順1)～6)を行う。
- 3) エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待つ。
(約30秒～1分)
- 4) プライミングポンプを押す。
エンジンのフューエルリターンパイプから燃料タンク内に燃料が出なくなるまで行ってください。
- 5) エンジンが冷えるまで待つ。
- 6) 点火プラグを外し、プラグ孔から新しいエンジンオイルを3～5 mL注入する。

- 7) リコイルを2～3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付ける。

⚠ 注意

- ⊘ リコイルは勢いよく引かない
プラグ孔からエンジンオイルが勢いよく吹き出すおそれがあります。

- 8) リコイルを引き、重くなった状態(圧縮状態)にする。
- 9) こぼれた燃料、水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃する。
- 10) 本機が移動しないように固定する。
本機にタイヤを固定する機能はありません。



- 11) 適した場所に保管する。(上記「保管に適した場所」参照)

⚠ 注意

- ⊘ 屋外に長時間放置しない

定期点検を行いましょ

本機を安全に、また快適にご使用いただくために定期点検を行ってください。

点検の結果、異常があった場合は本機を使用しないでください。

- 点検時期は表示期間または運転時間で実施してください。
- 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

警告

点検の際は、エンジンを停止し、またエンジンが充分冷えていることを確認する

草刈機としての定期点検

部位	項目	時期 ^{*1}			参照ページ
		作業中	作業前後	25時間 運転ごと	
各部	ネジ、ナット類のゆるみ点検		●		—
	割れ、欠け、変形、摩耗、損傷などの点検		●		—
ナイロンカッター本体	取付ボルトのゆるみ点検	●	●		8~9
ナイロンコード	正しい取り付けの点検		●		11~12
飛散防護カバー	取り付け位置、角度の点検		●		8
タイヤアームの固定ノブ	締め付けの点検		●		7
ハンドル	取り付け角度の点検		●		7
ギアボックス	周辺の清掃		●		23
	グリスの補給			● ^{*2}	29

エンジンの定期点検

部位	項目	時期 ^{*1}						参照ページ
		作業前後	作業中	初回8時間 運転後 または 1か月後	20時間 運転ごと または 3か月ごと	50時間 運転ごと または 6か月ごと	2年 経過 ごと	
各部	ネジ、ナット類のゆるみ点検	●						—
エンジンオイル	点検	●						14
	交換			●		●		28
燃料配管部	点検	●	●					—
	交換						● ^{*2}	—
エアクリーナー	点検	●			● ^{*3}			29
	交換						● ^{*3}	—
冷却風取入口、冷却フィン、マフラー周辺	点検・清掃	●	●			●		21
点火プラグ	点検・清掃					●		29
	交換						●	—
吸気、排気弁の隙間	点検・清掃					● ^{*2}		—
アイドルスピードの調整	点検・清掃					● ^{*2}		—
燃料タンクの点検、清掃	点検・清掃					●		—
燃料フィルター	点検・清掃				●			28
マフラー	点検・清掃							—
	交換						● ^{*2}	—

※1 運転時間または期間のどちらか早く達した方で実施してください。点検間隔がそれ以前の間隔を超え次の間隔に達している場合は、それまでに含まれている項目は同時に実施してください。

※2 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。エンジンをいつまでも安全で快適に使用していただくために、部品交換を推奨いたします。

※3 エアクリーナーの交換は、エレメントのみ交換を行ってください。

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

お客様で分解・修理は絶対にしないでください。点検・修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

★：お問い合わせの多い項目

	トラブルの症状	考えられる原因	対策	参照ページ
エンジン	リコイルが引けない、または重い	エンジン内のサビ付き	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。	—
		エンジンの焼き付き		
	エンジンが始動しない	★チョークレバーの操作が適切でない	チョークレバーを適切に操作する	17
		燃料タンクに燃料が入っていない	燃料を給油する	13
		★古い燃料（約1か月以上）使用によるエンジン不調	「長期保管」手順1)～5)を行った後、正しい燃料に入れ替える	13,24
		★指定以外の燃料を使用している		
		燃料フィルターにゴミが詰まっている	燃料フィルターを清掃する	28
		燃料フィルターが燃料の油面より上にある	燃料フィルターを燃料タンクの底に押し込む	
		エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	29
		★点火プラグのかぶりなど	点火プラグの清掃・点検・交換	29
		キャブレターが詰まっている	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。	—
	エンジンが数分動いた後止まる 始動するが、回転が上がらない、出力が充分でない	★チョークレバーの操作が適切でない	チョークレバーを適切に操作する	17
		★古い燃料（約1か月以上）使用によるエンジン不調	「長期保管」手順1)～5)を行った後、正しい燃料に入れ替える	13,24
		★指定以外の燃料を使用している		
		燃料フィルターにゴミが詰まっている	燃料フィルターを清掃する	28
		エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	29
		冷却風取入口などエンジンの各部にゴミが詰まっている	ゴミを取り除く	21
		スロットルワイヤーの遊びが大き過ぎる	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。	—
	運転中、回転が次第に下がる	★指定以外の燃料を使用している	「長期保管」手順1)～5)を行った後、正しい燃料に入れ替える	13,24
エアクリーナーの汚れ		エアクリーナーの清掃	29	

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

お客様で分解・修理は絶対にしないでください。点検・修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

★：お問い合わせの多い項目

	トラブルの症状	考えられる原因	対策	参照ページ
草刈機全体	異常な振動がある、ナイロンカッターが外れる	ナイロンカッターの取付ボルトがゆるんでいる	増し締めする	9
		ナイロンカッターが変形・破損している	ナイロンカッターを新品に交換する	—
	ナイロンカッターの回転が止まる、または次第にゆっくりになる	ナイロンカッター周辺に草やゴミが巻き付いた	エンジンを停止し、草やゴミを取り除く	23

整備

お客様が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご依頼ください。

⚠ 危険



燃料を取り扱うときは次のことに注意する

- エンジンを停止し、エンジンが充分冷えていることを確認する
- タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
- 身体の静電気を放電する

火気や人体の静電気の放電による火花が燃料に引火し、火災の原因になります。

⚠ 警告



換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所でエンジンを始動しない

有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因になります。



点検は平坦・水平な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを「STOP」にし、点火プラグキャップを取り外して行う



点検・整備は本機が冷えてから行う

エンジン停止直後は、エンジン各部、ギアボックス周辺、燃料など各部が高温になります。温度が十分に下がるまで触れないでください。ヤケドやケガの原因になります。

エンジンオイルの交換

- エンジンオイルが汚れているとエンジンの寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守ってください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ってください。

用意するもの

- 指定のエンジンオイル（15ページ「エンジンオイルの給油」参照）
 - 付属のオイルポット
 - 排出するエンジンオイルを受ける容器
- 1) 燃料がこぼれないよう、燃料タンクキャップを確実に締め付ける。

- 2) エンジンを始動し、2～3分暖気運転をする。
エンジンオイルを排出しやすくします。
- 3) エンジンスイッチを「STOP」にする。
エンジンオイルを排出しやすくします。

⚠ 警告



エンジンオイルは、エンジンが冷えるのを待って交換する

長時間運転後のエンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっているため、ヤケドの原因となります。エンジンが冷えるまで待ってから行ってください。

- 4) オイルを受ける容器を地面に置く。
- 5) エンジンのオイルプラグを外す。本機をオイル注入口側に傾けて、容器にオイルを出す。

取り扱いのポイント

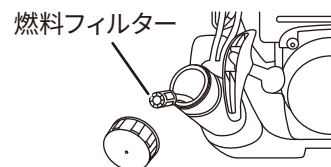
- エンジンオイルなどの廃液は、自治体の指示に従って廃棄してください。
- 6) 14ページ「エンジンオイル」を参考に新しいエンジンオイルを給油する。

エンジン

燃料フィルターの清掃

用意するもの

- 針金など
- きれいな白灯油



- 針金などで燃料注入口から引き出して、きれいな白灯油で洗浄します。
- 汚れがひどいときは、フィルターを交換の上、タンク内も洗浄します。

整備

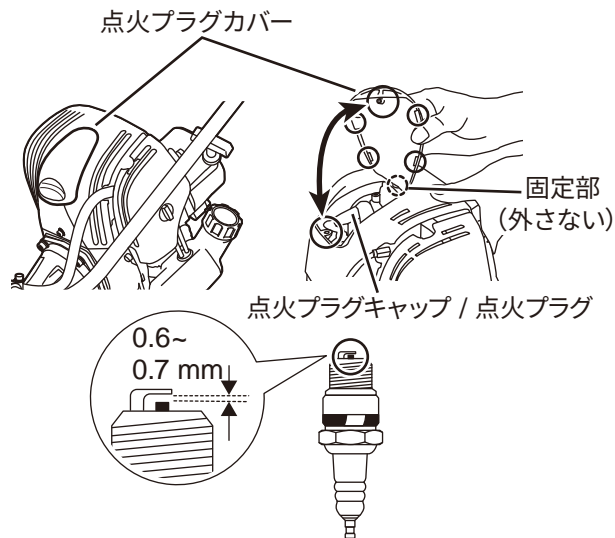
点火プラグの清掃・点検・交換

用意するもの

- 指定点火プラグ：NGK CMR6A
- 本機に付属のプラグレンチ

取り扱いのポイント

- 故障の原因となるため、指定以外の点火プラグを使用しないでください。

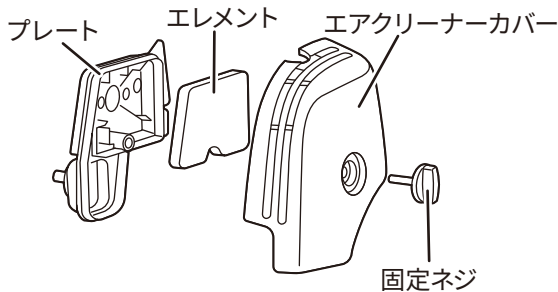


- プラグがぬれているときや汚れているときは、布切れなどで拭いてください。
- プラグのすき間は0.6~0.7 mmで調節してください。
- プラグ交換後はプラグカバーを必ず閉じてください。
- プラグの清掃やすき間調節をしてもエンジンが始動しない場合は、新しい点火プラグに交換してください。

エアクリーナーの清掃

用意するもの

- きれいな白灯油
- きれいなエンジンオイル



エレメントを白灯油で洗浄し、よくしぼる。
エンジンオイルに浸し、押しつぶすようにしぼってからケースに組み込む。
オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。

⚠ 注意

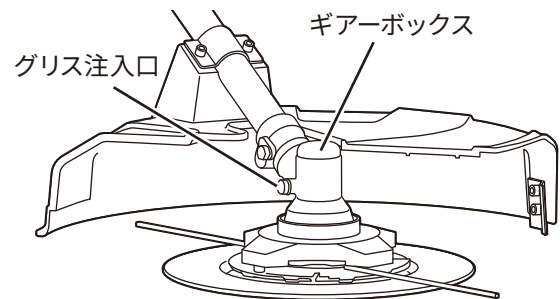
- ⊘ エレメントをねじらない
破れてエンジン不調の原因になります。
- ⊘ エレメントを取り付けずにエンジンを運転しない
エンジンの摩耗が早まります。

ギアボックス

グリス補給

用意するもの

- リチウム系万能グリス2号



- 1) ギアボックス周囲にこびりついた草などをきれいに掃除する。
ギアボックス内部への異物の混入を防ぎます。
- 2) グリス注入口のボルトを外してグリスを注入する。
穴からグリスが少し出るまで注入してください。
- 3) 出てきたグリスを拭き取り、元通りにボルトを締め付ける。

ラベル

- 本機には、ラベルが貼り付けされています。ラベルが見えにくくなった場合や、はがれた場合には購入店に注文し、貼りかえてください。


仕様


主な仕様

機種名	EBC-35C		
製品名	手押し式エンジン草刈機		
用途	雑草の草刈り		
刈刃	使用刃物 ^{※1}	ナイロンカッター	
	刈込幅	420 mm	
	ナイロンカッター本体	直径：240 mm、高さ：42 mm	
	ナイロンコード	断面：四角（対辺2.4 mm）	
	ナイロンコード取り付け方法	手動巻き込み式	
	刃物回転方向	反時計回り（使用者から見て）	
エンジン 諸元	エンジン名称	工進K35	
	型式	空冷4サイクルガソリンエンジン	
	総排気量	35 cm ³	
	最大出力	0.81 kW (1.1 PS) / 6,500 rpm	
	使用燃料	レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量	約0.7 L	
	エンジンオイル	4サイクル用エンジンオイルSE級以上 SAE 10W-30	
	エンジンオイル規定量	0.1 L	
	点火プラグ	NGK：CMR6A	
	始動方式	リコイルスターター方式	
燃料消費目安	約50分（使用条件によって異なります）		
製品重量 ^{※2}	11.5 kg		
寸法	状態	使用時	折りたたみ時
	長さ	1,280 mm	1,140 mm
	幅	540 mm	540 mm
	高さ	920 mm	620 mm

※1

警告

 指定純正ナイロンカッターまたはナイロンコード専用
その他の刈刃やオプション品は取り付けできません。

 改造禁止
改造して上記の刈刃などを取り付けた場合、キックバック
（跳ね返り）を起し、重傷を負うおそれがあります。

※2 付属品を含む

パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。

パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。

また、下記に記載のないものもあわせて、弊社ウェブサイトにてパーツ表、価格をご覧ください。

ご注文時のお願い

部品番号（7～9桁）または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

パーツ表・価格

1) <https://www.koshin-ltd.co.jp> へアクセス



3) エンジンパーツリストをご覧の場合は、続いて「エンジンパーツリスト」バナーをクリック



2) トップページ「パーツリスト」バナーをクリック


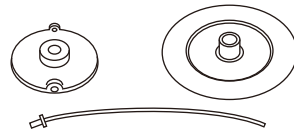



主なパーツ

名称	機種名・JAN	備考
EBC-35C ナイロンコードパック (20 m)	機種名：PA-416 JAN：4971770-200975	4 m に切断してご使用ください

※ 下記のナイロンカッター／コードをお買い求めいただくと、ナイロンコードを「手動巻き込み式」から「さし込み式」に変更できます。その際、PA-431とPA-434はセットでご使用ください。セットで使用しないと本機が故障するおそれがあります。

PA-429はPA-431用の交換ナイロンコードです。

名称	機種名・JAN	備考
EBC-26C ナイロンコードφ3 (20本入)	機種名：PA-429 JAN：4971770-201118	
EBC-26C 交換用ナイロンカッタークミ／ ナイロンコードφ3 (10本入)	機種名：PA-431 JAN：4971770-201125	
EBC-26C 刃受金具・ボルトセット	機種名：PA-434 JAN：4971770-201132	(左ネジ)  PA-431ナイロンカッターを 取り付けするためのボルトです

保証書

レシート(販売証明書)と
共に保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無料修理をお約束するものです。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無料修理いたします。商品と本書、レシート(販売証明書)をご準備のうえ「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機種	手押し式エンジン草刈機 EBC-35C		※お買い上げ日	年 月 日
保証期間	お買い上げより1年間			
お客様	※お名前		※購入店 住所 店名 電話 ()	
	※ご住所	〒 電話 ()		

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

1. 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。

- 〈イ〉 使用上の誤り、改造、不当な修理、弊社指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷。
- 〈ロ〉 お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
- 〈ハ〉 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用(電圧、周波数、使用液、使用燃料等)による故障または損傷。
- 〈ニ〉 取扱説明書に記載の用途以外の目的に使用された場合の故障または損傷。
- 〈ホ〉 本書のご提示がない場合。
- 〈ヘ〉 本書にお客様名、お買い上げ年月日・購入店名の記入またはレシート(販売証明書)の添付がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 〈ト〉 付属品、消耗品の交換。

〈チ〉 車両、船舶等への取り付けまたは外部要因による故障または損傷(船舶への取り付けは弊社指定船舶用製品を除く)。

- 2. 保証期間内でも次のものは修理および補償いたしかねます。
 - 〈イ〉 機能上影響のない感覚的現象(音、振動、操作感等)。
 - 〈ロ〉 商品を使用できなかったことによる不便さおよび損失。
- 3. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 4. 出張修理は対応いたしかねます(一部商品を除く)。
- 5. 本書は日本国内についてのみの有効です。

This warranty is only valid in Japan domestic.

株式会社 **工進**

京都府長岡京市神足上八ノ坪 12

お問い合わせ

【個人情報のお取り扱いについて】お客様の個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない商品もございます。



株式会社 **工進**



〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12

<https://www.koshin-ltd.co.jp>

製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

製品の修理に関するお問い合わせは.....工進修理受付窓口へ

保証期間経過後の修理などについてもご相談ください。

電話 **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ① お電話またはメールで連絡
- ② 修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います)
- ③ センターで修理
- ④ ご自宅までお届け
- ⑤ お支払いはクレジットカードまたは代引き

製品に関するお問い合わせは.....お客様相談窓口へ

Q&A お客様サポートページ **0120-075-540** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。